

3月のクマ情報

今年は今よりも全国各地でクマの出没が確認されており、幸いにも紫波町内ではクマの目撃に関する情報は2月以降確認されておりませんが、暖かくなってきたことでいつクマが動き始めてもおかしくない季節にはなっています。特に今年には昨年の秋がドングリの凶作だったこともあり山に食べ物がありませんので、目を覚ましたクマが人里周辺に餌を求めてやってくることも懸念されます。

春先のクマの出没において注意が必要になってくるのが、米や蔵出しりんごなどの保管していた作物の管理です。秋には農地での被害が多くありましたが、春先には農地にクマの食べ物となるものはあまりなく、自宅や小屋などに保管してあるものを狙って人家周辺に出没する危険性が高いですので、人身被害にあわないうためにも管理状態の見直しをして、被害防止に努めていきましょう。

また、クマが狙うのは必ずしも農家の作物ということではなく、一般の住宅でも餌となるものがあれば出没の恐れがあります。家の外に放置しない、小屋には鍵をかけておくなどクマに食べられないための対策が重要です。クマは一度餌を食べるとその場所を覚えて何度もやってくるようになりますので、被害が出てからではなく被害の出る前から対策を行っていくことが何よりも大切です。米などの保管状態に不安があれば、アドバイス等もしておりますので一度環境課までご相談ください。



意外なクマの通り道

最近では町中にも出没することが増えてきたクマ。彼らはいったいどこを歩いてやってくるのだろうか。

クマの生活域でもある森林や藪を伝ってやってくるのは言うまでもないだろう。紫波町では東の山から森伝いに最後は北上川を渡って城山公園までやってくる。

他によく話に聞くものの一つが河川ではないだろうか。盛岡駅周辺に出没したクマなど、町中へクマが出没する際に通り道となるのが非常に多い。

だが、クマの通り道となるのは森や河川だけではない。例えば、田んぼをつなぐ水路、とくに深さが1メートル以上になる大きな水路であれば人目につかずに移動ができるため、クマにとつては格好の通り道となる。

高速道路や鉄道の線路脇のやぶもクマの通り道となる。姿を隠したまま長距離移動をすることができ、人間と出会うこともめつたにない。

今後クマを町中へとやって来させないようには、このようなクマの通り道を知り、刈り払いなどをしてクマに通らせないようすることが大切だ。



今月の話題

クマ対策と緩衝帯



クマ対策の一つとして最近話題にあがることも増えてきた緩衝帯の整備だが、実際にどのようなことをするのか、どんな効果があるのかについてはまだまだ知らない人も多いだろう。

そもそも緩衝帯とは何なのかという話になるが、野生動物の生活圏である山と人間の生活圏である里や農地との間に設けられる一定の空間的な緩衝区域を指す。幅は5〜10メートル程度あることが望ましいとはされるが、対象鳥獣や地形環境によっても適切な距離は変わってくる。

最近では人を見ても逃げない人に慣れた野生動物もいるとされている中で、緩衝帯を作っただけで被害がなくなるとは思えないという人もいるだろう。もちろん、緩衝帯を整備するだけで野生動物の被害をゼロにできるわけではない。それほどに万全な策であれば全国でもっと取り組まれていることだろう。

緩衝帯整備による効果で最も大きなものと私が考えているのはクマによる人身被害防止だ。

クマによる人身被害が発生する状況としてよくあるのがクマと人がバッタリ遭遇してしまうことによる事故だ。至近距離での遭遇のため人も避ける時間がなく、クマも逃げるために攻撃してくることが多い。緩衝帯を整備することで農作業中や日常生活の中でクマとバッタリ遭遇してしまうリスクを大きく減らすことができる。

本来クマは臆病な動物であるので、特に人の多い日中はやぶの中で隠れて休んでいることも多い。あるGPSを使った調査ではやぶの草刈りを行ったことで日中のクマの滞在時間が減少したとする例もあり、緩衝帯整備を行うことで日中のクマとの遭遇リスクを低下させられることは間違いないだろう。

緩衝帯

